

IMF大会・合併大会および インダストリアル・グローバルユニオン 結成大会報告

金属労協国際局主任 高城 牧子

2012年6月18日～20日、デンマークの首都コペンハーゲンのコペンハーゲン空港にほど近いベラ・センターにおいてIMF(国際金属労連)の発展的解散と3GUF統合を確認するIMF大会・合併大会、およびインダストリアル・グローバルユニオン結成大会が開催された。



IMF臨時大会 (2012年6月18日、コペンハーゲン)

IMF大会・合併大会

IMF臨時大会は、2012年6月18日午前9時半から10時15分まで、コペンハーゲンで開催された。同大会には世界から加盟組織代表800名余が参加、IMF・JICからは87名の代表団(内女性18名)と、IMF本部招待で小島正剛IMF・JIC顧問・元IMF東アジア地域事務所代表が参加した。

IMFは、2009年にスウェーデン・イエテボリで開催した第32回世界大会で、製造業3GUF(IMF・ICEM・ITGLWF)の組織統合に向けた協議を開始することを決め、2010年以降3GUFで合同タスクフォース会議を設置して議論

を重ねてきた。各地域においても新組織結成について協議し、2011年末までに各GUFは2012年6月19日に新GUF結成大会をデンマーク・コペンハーゲンで開催することを確認した。これに伴いIMFは6月18日にコペンハーゲンで臨時大会を開催し、その119年の歴史に幕を閉じ、正式にインダストリアル・グローバルユニオンを結成することを圧倒的多数の賛成で決議した。

「新たな一歩踏み出そう」 フーバー会長挨拶

ベルトホルト・フーバーIMF会長は大会開会挨拶で、新GUF統合

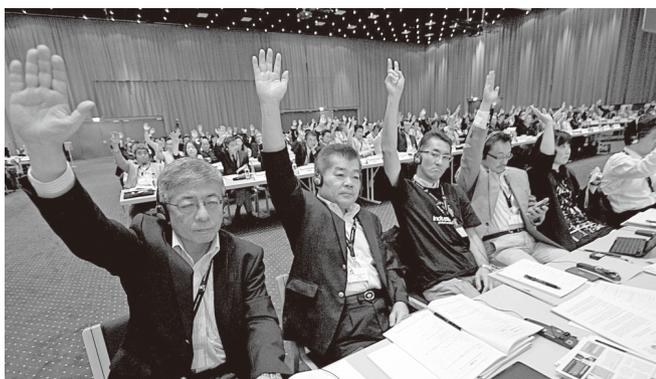


結成大会会場のベラ・センター周辺
海岸沿いに林立する風力発電風車

に向け賛否両論の議論をしてきた経過にも触れ、「時には大胆に前進することが必要である。我々は新たな一歩を踏み出す。皆さんも共にチャレンジに取り組んでほしい」と述べた。また新組織での重点取り組み課題として、「健全な財政基盤の確立」「活動に優先順位を付け、効果的であり現場に近い取り組みを実施」「3組織のそれぞれの特徴・強みが反映される様に配慮することが必要」の3点



IMF臨時大会でのフォーバー会長ら IMF首脳



インダストリアル結成に賛成の挙手をする IMF-JC 代表団

を掲げた。大会ではフォーバー会長の挨拶に引き続き、草野忠義 IMF・JC 元議長をはじめとした 2009 年の IMF 世界大会以降に逝去された組合幹部への黙とうが行われた。

産業部会長の選出

大会議題「産業部会長の選出」では、2011年12月にジャカルタで開催した IMF 中央委員会で「ジェンダー、地域バランスが確保されていない」との意見が出され承認されなかった部会長リストについてユルキ・ライナ書記長は、この点については引き続き調整を行うと説明し、部会

長の候補者リストが提案された。一部代議員からは「見直しを先送りにすべきではない」との意見も出されたが、審議の結果リストは承認された。ICT・電機・電子部会長には有野正治 IMF・JC 副議長／電機連合委員長が選出された。また、ジェンダー・地域バランスの観点から、同副部会長にはインドネシア FSP MI のプリハニ女性副委員長を選出した。

新組織結成手続きを進めるため IMF 規約を修正

議題「IMF 規約の修正」では、新

GUFB 本部が設置されるジュネーブ州の組織合併法に基づき新組織結成手続きを進めるための規約改正が提案され、修正案 A「執行委員会は大会と同様に別の連合または団体、特に ICEM との合併またはその他の転換に関する決定を承認する権限も有する」については、一部反対意見も出されたが法対策のために必要だとの説明を受け承認された。

IMF 大会に引き続き、IMF 合併大会

引き続き開催した IMF 合併大会ではまず、大会資格審査委員会・動議委員会・開票人が承認された。

議題「インダストリアル結成のための IMF と ICEM の統合による合併に関する決定」では、ジュネーブ州の法律に基づき、法的にはまず IMF と ICEM が組織合併し、2013年にベルギーの法律に基づき ITGLWF が解散しインダストリアルに統合されるが、結成大会では 3 組織でインダストリアル・グローバルユニオンが結成されることと「政治的合意」文書に明記されることが説明され、「合併合意文書」「合併報告書」が承認された。

インダストリアル規約の承認

「インダストリアル規約」に関しては、中南米・カリブ海地域の議席数割り当て 6 名が現状に即していないので 4 名増員し 10 名にしてほしいとの強い要請が出されたが、審議の結果提案は棄却され、規約は承認された。これに伴い IMF はインダストリアル・グローバルユニオン結成を承認した。

合併大会の最後には IMF の歴史をまとめた 7 分間のビデオが上映された。

インダストリアル出身主要役員候補を承認

また閉会前には、インダストリアル・グローバルユニオンの IMF 出身の下記主要役員候補リストが提案、承認された。

- ◆ 会長 ≡ ベルトホルト・フォーバー (ドイツ・IGメタル)
- ◆ 副会長 ≡ R・トーマス・バッフェンバーガー (アメリカ・IAM)
- ◆ 書記長 ≡ ユルキ・ライナ (フィンランド・北欧産業労連)
- ◆ 書記次長 ≡ フェルナンド・ロペス (ブラジル・CNM・CUT)

3 G U F がそれぞれ インダストリアル結成 を機関決議

6月18日、IMF大会に引き続きICEM、ITGLWFもそれぞれ大会を開催し、6月19日にインダストリアル・グローバルユニオンを結成することを各組織が正式に決議した。

3 G U F がインダストリアル・グローバルユニオン結成を確認した6月18日夜、日本の3 G U F 加盟組織（IMF・JIC、ICEM・JAF、



3 G U F 日本国内組織の夕食懇親会
(6月18日夜)

UIゼンセン同盟）参加者が初めて一堂に会して夕食会を開催し、懇親を深めた。

アジア太平洋地域会議報告

アジア地域議長・ アジア地域代表財政委員に 西原議長を選出

2012年6月18日午後4時半から1時間という短時間で、3 G U F のアジア太平洋地域代表が参加してアジア太平洋地域会議が開催された。IMF・JICからは本部、加盟産別委員長／会長、書記長／事務局長、国際担当を中心に16名が出席、ICEM・JAF、UIゼンセン同盟からも代表が出席した。

会議では、「アジア太平洋地域のイ

ンダストリアル執行委員候補者氏名の確認「アジア地域議長選出」「アジア地域代表財政委員選出」「今後のアジア地域の活動について」の4議題について審議、決定した。会議はユルキ・ライナIMF書記長の司会で開会し、会議座長選出については、オーストラリア代表から「全てのG U F で日本がリーダーシップを取っているの日本の代表にお願いしたい」との意見が出され、西原浩一郎IMF・JIC議長が会議座長に選出された。

議題「アジア太平洋地域の執行委

員選出」では、各G U F 代表（IMFは西原IMF・JIC議長、ICEMは落合ICEM・AP議長、ITGLWFは島田TWARO会長）がそれぞれのG U F 枠で指名された執行委員・委員代理候補者氏名を読み上げ確認され、翌日開催するインダストリアル大会で報告する事になった。

引き続き指名された執行委員候補者が壇上に集まり、アジア地域議長・アジア地域代表財政委員選出について10分ほど議論を行った。その結果、アジア地域議長に西原浩一郎IMF・JIC議長、ジェンダーバランスの観点から副議長にオーストラリアの



アジア太平洋地域会議壇上で議長及び財政委員選出について議論。

ITGLWF加盟組織のミシエル・オニール氏（女性）が選出された。アジア地域代表の財政委員にも西原浩一郎IMF・JIC議長が選出された。西原IMF・JIC議長は選出に際し、「時間的な制約がある中での選出となったが、今後は民主的に運営していききたい。秋にアジア地域の執行委員の会議を開催して地域運営の強化に務めていきたい」との挨拶を行った。

会議では、フィジーでの労働組合への弾圧に対する決議案をインダストリアル大会に提案することが報告され、これを承認した。



会議座長を務める西原議長（左）。中央はライナIMF書記長



インダストリアル結成大会 (2012年6月19-20日、コペンハーゲン)

インダストリアル・グローバルユニオン結成大会 ベルトホルト・フーバー会長、ユルキ・ライナ書記長ら新役員を選出 新組織名称、組織ロゴ、規約、アクション・プランなどを審議・決定

IMF、ICEM、ITGLWFの3GUFが統合する新GUF「インダストリアル・グローバルユニオン結成大会」は2012年6月19日午後2時から翌20日午後12時半まで、デンマーク首都コペンハーゲン市内ベラ・センターで開催された。結成大会では、役員の選出をはじめ、新組織名とロゴマークの確認、アクション・プランなどを審議・決定した。

結成大会には、109カ国・354組織から1046人(内女性参加者234人、22%)が参加した。この他、オブザーバーが多数出席した。なお、投票権は1190万人分であることも確認された。

会議初日

野田首相のビデオメッセージを放映

大会初日6月19日は、フランク・イエンセン・コペンハーゲン市長の歓迎挨拶で始まった。続いて開催国組織を代表してアルヴェ・バッケ北欧産業労働会長が挨拶に立ち、北欧・コペンハーゲンでのインダストリアル結成大会開催を歓迎した。引き続き各GUFを代表してベルトホルト・フーバーIMF会長、センゼニ・ゾクワナICEM会長、島田尚信ITGLWF会長がそれぞれ挨拶を行った。

大会各種役員、大会議事規則が承認された後、オーストラリアのジュリア・ギラード首相、日本の野田佳彦首相からインダストリアル・グ



大会初日、野田首相のビデオメッセージを放映

し、人類全体の豊かな未来に、多大に貢献することを期待しています」と述べた。

議題「インダストリアル・グローバルユニオン諸機関の役員選出」では、執行委員・会長・副会長・書記長・書記次長・会計監査の選出が行われた。

ローバルユニオン結成へのビデオメッセージが上映された。ビデオメッセージの中で、野田首相は、「私たちはグローバル経済の下で様々なリスクに対処しながら、良質な雇用を生み出し、『額に汗して働けば報われる』という健全な社会を作らねばなりません。5000万人の労働者による国境を超えた連帯は、世界をより良い場所に変えていく大きなパワーです。本日、産声を上げたインダストリアルが、国際社会の課題を解決

各地域代表の執行委員・代理委員候補者氏名は会場スクリーンに映し出されたが、ラテンアメリカ・カリブ海地域執行委員については、未確認との報告があった。この議題に対して会場からは5名の発言希望があり、中南米の代表からは自分たちの地域への正当な議席配分がなされていないとの主張が行われ、南ア、イタリヤの代表からはそれを支持する意見も出された。ユルキ・ライナ書記長はこの問題については昨日各GUFでインダストリアル・グローバルユニオンの規約が承認されていることもあり、投票に付すしかない」と述べ、単純多数決の挙手による投票が行われた。結果は提案リストが承認され、中南米の空席のリストについては執行委員会に委ねられることになった。この採決が出た直後、中南米の代表が抗議の意を表して退場するという一幕が起きた。会長・副会長・書記長・書記次長・会計監



ヒマラヤに掲げた新組織旗をライナ書記長に手渡すネパール代表



インダストリアル・ロゴマーク

査についても役員候補者が報告され、提案通り、会長にベルトホルト・フーバー氏（ドイツ・IGメタル）、書記長にユルキ・ライナ（北欧・北欧産業労連）をはじめとする諸機関役員が選出された。

諸機関役員の選出が終わった時点で、ユルキ・ライナ書記長から中南米代表が退席したことに伴って、「彼らにこの会場に戻ってきてもらいたい、規約については明日討議することとして、今夜対応を検討したい」との提案が出された。

引き続き大会は新組織の名称、ロゴマークについて検討し、名称「インダストリアル・グローバルユニ

オン」と、組織ロゴについて確認した。その際には、ネパールの加盟組織代表が新組織の旗をヒマラヤに掲げてきたビデオが上映された。「アクション・プラン」に関しては、ユルキ・ライナ書記長が概要を説明し、議論については翌日行うこととなった。

会議初日終了前には、ピーター・ウォルドルフ・グローバルユニオン協議会議長、先月選出されたばかりのガイ・ライダーILO次期事務局長から連帯挨拶が行われた。また議事の間には、シャラン・パロウITUC書記長、グリーンピース代表、米学者、ナイキ副社長、ナポレオン・ゴメス・メキシコ鉱山労組書記長か

らのビデオメッセージが上映された。大会開催中、コミュニケーションツールの新たな取り組みとしてソーシャルメディアの利用が呼びかけられ、壇上のスクリーン両脇にはツイッターのメッセージが逐次上映された。

初日19日晚には北欧労組主催の歓迎夕食会が開催された。

会議2日目 アクション・プランめぐり 36人が発言

会議2日目には元IMF執行委員（スウェーデン）IFメタル会長）で昨年スウェーデン社民党党首に選出されたステファン・ロフヴェン氏の挨拶で始まった。

JJCを代表して 西原議長が発言

続いて前日概要が説明された「アクション・プラン」に対する会場からの発言が行われた。IMF・JJCを代表して西原議長が意見表明に立ち、インダストリアル結成への経過にもふれながら、新組織結成により産業労働者の運動を強化し、これまで以上の力を発揮し得る枠組みを得たことを歓迎した。また新組織結成自体が目標では無く、今後4年間の移行期間の重要性についても言及した。西原議長は優先課題として、製造業労働者の意見を政府間会合・国際機関に反映させること、組合ネットワークの強化、女性労働組合幹部の育成等をあげ、IMF・JJCとしてインダストリアル活動を全力で支えていくとの意思表明をした。また、中南米の執行委員議席配分の問題に関して、「透明性を保った民主主義が担保されなければならない、少数意見を尊重し多様な意見を取り纏め、決めたことを推進するよう本部がリーダーシップを発揮するべきだ」と述べた。

アクション・プランに対する発言は36件あった（内、女性7名/欧州12、北米4、中南米4、アフリカ5、



アクションプランを提案するライナ書記長



結成大会で意見表明する西原議長

アジア太平洋Ⅱ)。主な意見は、英ユニオンの代表が「組織化が最重要課題、5000万人の組合員数を1億人にすることを目指すべき。また我々の組織化や紛争解決を支援してくれた日本・オーストラリア・フィンランドの労組にお礼を申し上げる」と述べた。ボブ・キングUAW会長は、アクション・プランの内容を評価し、「やはり組織化に重点を置くべき、強い組合で戦略的な組織化を構築すべきだ」と発言した。また組織化等に関して自動車総連、IGメタルの協力が感謝の意を表すとともに「UAWが組織するTNCの海外工場で労



アクション・プランに賛成する結成大会代議員

使の問題があれば、要請いただければいつでも駆けつけ解決に協力する」旨述べた。他にも組織化を重点課題とする発言が多数あり、特に女性・若者の組織化に関してキャンペーンを展開するなどの意見も出された。また、UIゼンセン同盟を含む複数の労組代表から、ITGLWFがこれまで展開してきた生活賃金キャンペーン、児童労働・強制労働撲滅キャンペーンの継続、ILO基準条約批准の取り組みを推進して欲しいとの要望も出された。アクション・プランへの意見と同時に、出身国・労組の窮状を訴える発言も多く見られ

た。これら意見が出された後、単純多数決の挙手による審議が行われ、アクション・プランは賛成多数で承認された。

前日の中南米の執行委員議席数の問題に関して、ユルキ・ライナ書記長から合意を得られたとの発言があり、中南米を代表してブラジルのヴェルター・サンチェスが結果を以下の通り報告した。「結論として中南米加盟組織は規約は変えられないというコンセンサスに達した。中南米地域、特にIMFでは15%得ていた議席がインダストリアルでは10%に減った。議席数が規約に明記されていること自体が問題だと感じているが、次回執行委員会までにクリエイティブな議論をしようという事で我々は納得した」。この発言を受けてフーバー会長は、「規約を変えることなく何が出来るか検討する、議席数の再配分と言うより執行委員会への参画について例えばオブザーバー参加など何が出来るか話し合う」と述べた。続いて中南米の執行委員リストが提示され、全ての執行委員・代理委員リストが大会で承認された。執行委員の採決に続いて規約、政治合意文書、産業部門に関する採決も行われ全て承認された。

大会では、不安定労働、スペイン鉱山労働者、フィジーの労働組合弾圧に関する緊急決議が提案されいずれも採択された。

会議2日目にはブラジルの労働組合出身の前大統領ルラ・ダ・シルヴァからのメッセージをフェルナンド・ロペス書記次長が読み上げ披露した。閉会直前には、トルコの加盟組織代表から2016年に開催する次回インダストリアル世界大会をイスタンブールで開催したいとの申し出があった。

世界中の労働者のために 闘おう—フーバー会長

閉会に際し、フーバー会長はインダストリオールの優先課題として、「対政府・企業の取り組みを強化」「組合員の代弁者になる」「不安定労働への取り組み強化」「グローバルな労働ネットワーク構築」「組織化」をあげて、「これらの課題は簡単な問題ではないが、影響力を増し、世界中の労働者のために戦っていきましょう」と述べた。

インダストリアル・グローバルユニオン結成大会 3GUF 会長挨拶

ベルトホルト・フーバー IMF 会長挨拶

今日、歴史的な出来事が成し遂げられようとしている。これまでの道のりは簡単な仕事では無かった。労働組合の課題は経済のグローバル化で大きく変化している。我々の仲間の多くは多国籍企業で働いておりグローバルな事業展開をしている。我々はネットワークを構築し、以前にも増してグローバルな勢力で対抗していく。金融危機により若年層の失業や不安定労働が増加し、格差が拡大している。労働者の権利が失われ、組合結成のために労働者が逮捕され、解雇されている。このような状況を我々は容認できない。新しいGUFの課題である。我々は政治経済界に軌道修正を求めていく。環境は破壊されており、原子力は制御出来

ない技術であることは明白である。再生可能エネルギーへ転換し、持続的に発展出来る産業で雇用が維持されるよう、我々はメッセージを発信していく。

昨日 IMF は新組織の結成、新組織の規約を採択した。全ての意見がカバーされているわけではない。女性参画、地域間の議席配分など課題は残っているが、我々はスタートラインに立ったばかりである。2016年までに多くの課題に取り組んでいく。問題解決のための議論が出来ることを望んでいる。



センゼニ・ゾクワナ I CEM 会長挨拶

組織を統一するために大事なものを捨てなくてはならない時もある。痛みを伴うプロセスもあるが、皆が団結するために必要なプロセスである。昨日我々は歴史的な決定を行った。新組織結成は我々の責務である。新組織では闘争的な戦略が必要である。戦える新しい組織が誕生する。誰がリーダーかは関係ない。ジェンダーバランスはパーフェクトでないかも知れないが、強い闘争ができる組織を創らなければならない。使用者と話すだけの大きな組織であっ

てはならない。数は重要では無い。何をするのが重要。大きな組織が小さな組織を無視するような組織であってはならない。我々は過去を忘れ前進していく。実際に行動を起こし、使用者と戦わなければならない。他のGUFとも協力する。フーバー会長に同意する。我々は危機的な状況に置かれている。痛みを経て、新しい命が生まれる。



島田尚信 ITGLWF 会長挨拶

昨日政治的文書に合意し、新組織結成を決定した。組織統合を提案した故ニール・ケアリー元 ITGLWF 書記長も喜んでいることと思う。この2年間、協議はスピードを上げて進められた。対立もあった。この間の努力に対し、3GUFの書記長に感謝したい。ITGLWFはこれまでも合併を行ってきた。結成時からの課題である多国籍企業・貿易・移民労働は今日も共通の課題である。そして更に児童労働、オリンピックキャンペーン、生活賃金キャンペーンに取り組んでいる。繊維産業は先進国では衰退し、アジアやアフリカで発展している。現在は先進国のリ

ダーがこれまでの経験を元にアジア・中南米に支援を行っている。ITGLWFの加盟費はそれぞれの国の物価水準に合わせている。組合間の相互扶助を大切にしている。若年者の育成も行っている。新組織では部門・地域の活動がまだ見えていない。地域で活発な活動が行われることを望んでいる。各GUFの活動を継承しつつ、3組織が融合し一体化していくことを願っている。



寄稿文

JCの新GUF統合への貢献に感謝

ユルキ・ライナ
インダストリアル・グローバルユニオン書記長



5大陸すべてから1,400人が参加してコペンハーゲンで開催されたインダストリアル・グローバルユニオン結成大会は、華々しい歴史的な行事となりました。新組織結成の重要性は今後数年間に徐々に体感され、より強力で団結した140カ国の鉱業・エネルギー・製造業労働者5,000万人を代表する組合の共同行動が成果を上げ始めるでしょう。

ここに至るまでには長い道のりがありました。2005年のIMFウィーン大会に始まるいくつかの初期の措置を経て、このIMF-ICEM-ITGLWF間のプロセスは、2009年以降の各IMF執行委員会、すべての地域会議、中央委員会の議題に盛り込まれました。民主的なプロセスを確保し、加盟組合の間で当事者意識を生み出すことが重要でした。

新GUFの基本的な目標や方針に関してはほとんど意見の不一致がありませんでしたが、60人編成の執行委員会を設置する際には緊張が高まりました。誰もが意思決定機関に加わりたがったのです。多くの地域で厳しい議論を重ねた結果、コペンハーゲンで合意に至りました。IMF-JCがアジア太平洋地域で積極的に調整役を果たし、極めて大きな力になってくれたことに心から感謝します。

次の段階に進んで意欲的なアクション・プランを実行に移すにあたり、加盟組織が熱意を持ち、大きな期待を抱いていることをうれしく思います。アクション・プランを実行するには、すべてのインダストリアル加盟組合が本格的に貢献し、関与する必要があります。

私たちの重要な目標のうち、ここでは次の3つだけを挙げておきます。

- 組織化とより強力な組合の構築——組合員数を増やし、分裂した組織機構を全国レベルで統合して力を強化する必要がある。
- 労働組合権——すべての労働者が、自ら選んだ組合に加入して労働協約の保護を享受し、政府や企業によるあらゆる侵害に対応する権利を持てるよう確保する必要がある。
- 人を最優先する新しい経済・社会モデルを求める闘い——政治的意思決定者に圧力を加え、不安定雇用ではなく質の高い雇用の創出への投資、金融投機ではなく製造業の成長、全市民のための包括的な社会的保護を求める必要がある。

日本はグローバル経済の主演であり、日本企業はインダストリアルが代表する多くの産業部門で突出しています。日本の労働組合は、企業における労働組合員のネットワーク構築、グローバル枠組み協約の取り決め、円満な労使関係の開発、問題発生時の解決支援において果たすべき重要な役割を担っています。

これからも皆さんとしっかり協力していき、世界規模のインダストリアル・グローバルユニオン労働組合ファミリーにおける具体的な連帯の構築にあたって、IMF-JCに積極的に参加していただきたいと考えております。